



早く見たいな♡「手まり・八重咲き」アジサイ

—DNAマーカー、胚珠培養と日長・温度処理で早期作出技術を構築—

開発の背景・ニーズ

近年、母の日を中心に鉢物アジサイの需要が増加し、各産地のオリジナル品種が次々と作出されています。愛知県は、鉢物アジサイ生産量全国トップクラスの産地ですが、オリジナル品種がなく、品種による優位性が確保されていません。そこで、2020年から希少で人気が高い「手まり・八重咲き」アジサイを目標に新品種開発に取り組んでいます。

しかし、アジサイの「手まり・八重咲き」は発現率が低く、かつ、作出期間も最初の交配から開花まで最短でも5年を要します。そこで、効率的な育種に向け、早期作出技術の構築に取り組みました。

成果の内容

以下の4つの技術を組み合わせて早期作出技術を構築し、最初の交配から開花までの期間を一般的な栽培条件下での**5年から3年**に短縮しました。

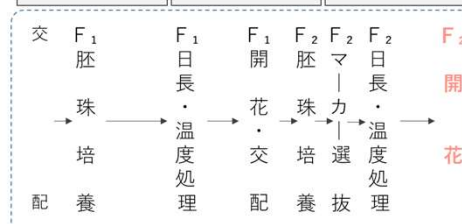
- 既存のDNAマーカーによる選抜（八重咲き性）
- 胚珠培養（交配後90日の未熟な種子（胚珠）から発芽させる技術（※種子獲得には、一般的に交配後180日必要））
- 日長・涼温処理（60日間、15℃、3,000lx、12時間日長下におくことで花芽分化誘導）
- 低温処理（40日間、5℃、暗黒下におくことで休眠打破）

本技術により、効率的に「手まり・八重咲き」アジサイを作出できます。



「手まり・八重咲き」アジサイとその装飾花（右下）

一般的な栽培条件下でのF₂開花までのフロー



※「手まり・八重咲き」アジサイはF₂(交雑第2世代)で発現

構築した早期作出技術でのF₂開花までのフロー

一般的なアジサイの新品種開発フロー（上）と構築した早期作出フロー（下）の比較

愛知県農業への貢献

構築した早期作出技術により品種開発の期間が短縮できます。この技術により作出したアジサイは、すでに鉢物生産者と共同での選抜作業が始まっています。愛知県オリジナル品種の開発により、愛知県産アジサイ鉢花のブランド力向上に寄与することができ、鉢物農家の優位性を確保します。

園芸研究部
環境基盤研究部